

東海連合支部 三重支部

三重支部恒例のテクテク会を開催

4月27日(土)に三重支部では毎年開催し、今回が27回目となるテクテク会を実施した。

近年は温暖化が影響と考えられる異常気象による災害や、我々の日常生活を脅かす事象が多く発生していることから環境問題に関心が高いこともあり、今回は「四日市公害と環境未来館」の見学会とした。地元の四日市市も50数年前には、公害により「日本一大気汚染された町」といわれましたが、企業・行政・市民団体が「日本一厳しい環境基準」を制定、施行した結果、最近の10数年間新規公害認定患者は一人もいないクリーンな町に生まれ変わった。その経験から得た環境技術は先進的で国内外への情報発信の拠点となっている。内容は四日市公害が発生し多くの市民が健康被害などに苦しんだ歴史とその教訓を次世代に繋ぐ大切さと経験から得た環境改善の取り組みや産業の発展と継続的な環境保全を両立した町づくりを映像や写真、模型などで四日市市環境部の職員から約2時間の説明を受け、未来へより良い環境を引き継いでいくための学びの時間であった。その後、愛知支部からの参加者と全員が場所を変えしばし歓談して、解散した。(窪田 健一46W)



参加者左から；(会館職員服部氏)

窪田健一(46W),佐野武司(62W),阿部雅信(47C 修),鶴岡徹雄(44M),阿部桂三(46S 修)

会館職員 (丹羽氏)